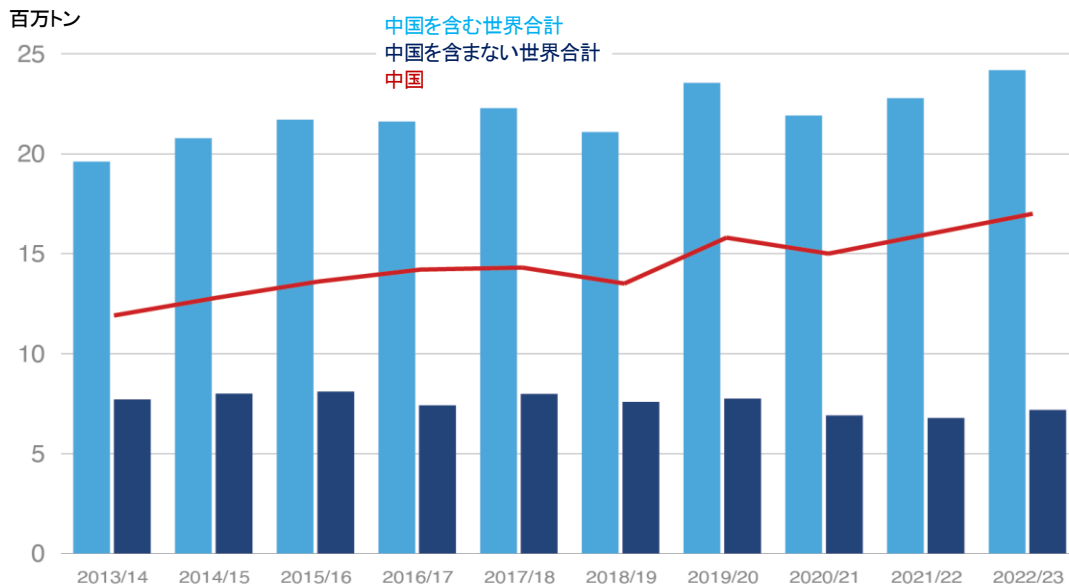


## 世界のモモとネクタリン 生産量の伸びは鈍化し、輸出は頭打ち

米国農務省国際農産物貿易レポート 2023年11月9日

## 中国が世界のモモ・ネクタリンの生産の成長を推進



出典：米国農務省海外農業局 生産需給統計システム

## 要約

世界のモモとネクタリン<sup>1</sup>の生産量は過去10年間で大幅に増加し、1,960万トンから2022/23年度には2,420万トンへと20%以上増加した。表面的にはこれは成長産業のように見えるが、2013/14年度以降、生産量が増加する国よりも減少する国の方が多く、上位5か国に入るとされる欧州連合(EU)と米国でも減少した。トルコとチリも世界の生産量の増加に貢献したが、世界的な上昇傾向は圧倒的に中国での拡大によるものであり、中国は世界の他の地域の減少の合計を上回るほど増加している。しかし、中国の生産物の大部分は国内で消費されるため、世界の生産量の着実な増加は貿易の拡大に寄与していない。世界の輸出量は、2013/14年度からピークとなる2017/18年度までに35%増加したが、その後はそれよりも低い水準で横ばいとなっている。

## 中国の拡大が世界の生産を牽引

中国は世界最大のモモとネクタリンの生産国であり、これは少なくともその生産量が460万トンで、400万トンの欧州連合(EU)を上回った2001/02年度に遡る。それ以来、中国の生産量は2022/23年度には約4倍の1,700万トンとなり、現在世界の生産量の70%を占めている。栽培面積は2008/09年度から2019/20年度にかけて毎年増加し、大部分が中国の中部で生産されている。それ以降毎年わずかに減少しているのは、一部には経済的収益の低さが引き金であり、生産者が果樹を伐採したり、より収益性の高い作物に移行したりする動機となっている。さらに、主要な穀物産地の省では、中国政府は果実生産者に対し、「農地で栽培している果樹園」(中国の規則で定義される)を撤去することを奨励または要求している。中国国務院が発行した穀物生産に関するガイドラインは、農地は主に穀物、綿花、油糧種子、砂糖、野菜及び飼料作物の生産に使用されるべきであるとしている<sup>2</sup>。農地からの果樹園の撤去が進む中、モモとネクタリンの栽培面積は中国北部と中部では減少しているが、丘陵地帯や山岳地帯の多い西部の省では増加している。栽培面積の大部分は1ヘクタール未満の小規模な家族経営の農場で占められているが、コスト削減と品質の向上を期待して農場の統合が進んでいる。近年の栽培面積の減少にもかかわらず、果樹は順次成木化してくるため、これまでのところ、2001/02年度以降、生産量は毎年平均50万トン以上の増加傾向を維持している。

トルコの生産の成功は中国に比べると控えめであるが、輸出市場や国内の果汁産業の需要に刺激されて果樹園の改良への投資が続いていることから、過去10年間毎年ほぼ一定の成長を続けている。生産者は、モモやネクタリンの古い園地を、新しい品種や台木を用いた密植の果樹園に転換している。また、果樹の成長を助け、誘導する果樹誘引システムなど、最新の栽培技術も採用している。これらの改良により、品質と収量が向上し、モモとネクタリンを合わせた生産量は2013/14年度から60%近く増加し、2022/23年度には史上最高の100万トンに達した。また、ネクタリンの植栽の増加により、栽培面積も増加した。モモの栽培面積はほぼ一定であるが、国内外の市場におけるネクタリンに対する消費者の嗜好の高まりを反映して、ネクタリンの栽培面積は2013/14年度以降ほぼ3倍に増加した。

チリの生産量は、ネクタリンの増加により、2013/14年度から約80%増加し、16万トンに達したものと推定される<sup>3</sup>。モモの栽培面積は、缶詰用のモモを中心に次第に減少しているが、より収益性の高いネクタリンの栽培への投資に拍車がかかり、モモの栽培面積の減少をほぼ相殺している。チリは、南半球で3番目に大きな生産国であると推定され、最も高い成長を見せている。

中国、トルコ、チリとは対照的に、EUと米国では過去10年間に需要の減少と悪天候による被害が重なり、生産量が縮小した。

EUは、2019/20年度まで年平均400万トンの生産量を維持していたが、翌年には生産量が410万トンから320万トンへと20%以上減少した。生産量は2022/23年度まで400万トン未満にとどまっており、これは雨や霜による被害が毎年収量に影響を与えたためであり、特にEUの生産量の40%を占める最大の生産国であるスペインで顕著であった。EUの総栽培面積は過去10年間で縮小したが、ほぼ毎年減少しており、過去5年間は減少の速度が速まった。EUの生産量の90%以上は域内で消費されるが、供給過剰とEUの生産者にとっての収益の低さから、主要生産国であるスペインとイタリアでは伐採が進んでいる。世界の生産量に占めるEUのシェアは、2013/14年度の19%から2022/23年度には13%に低下した。

米国では、過去10年間で生産量<sup>4</sup>がさらに大きな割合で減少し、生産量が30万トン以上減少して65万トンとなったため、30%以上の減少となった。栽培しているほぼすべての州で生産量が減少しているが、最も大きな減少はカリフォルニア州で、2013/14年度以降、モモとネクタリンを合わせた生産量が20万トン以上減少した。カリフォルニア州は最も生産量が多い州で、米国の生産量の80%を占め、加工用のモモについてはほぼ100%を占めている。2013/14年度から2021/22年度の間米国にモモ缶詰の消費量が35%減少した<sup>5</sup>ため、2013/14年以降加工用モモの需要が減少し、粘核種のモモの生産量は43%減少した。ほぼ加工用のみに使用される粘核種のカリフォルニア州のモモ生産量に占めるシェアは、2022/23年度まで4年連続で減少し、その生産量は少なくとも2002/03年度以来初めて20万トンを下回った。カリフォルニア州産の離核種のモモの生産量も過去10年間で減少し、6%減の23万8千トンとなった。主に生鮮で消費されるが、離核種の供給量の平均3分の1は加工用に使用される。カリフォルニア州のネクタリン生産量も大幅に減少し、2013/14年度以降30%減少した。栽培面積は次第に減少したが、2022/23年度は気象災害による減収により、生産量は1970年代初頭以来初めて10万トンを下回った。

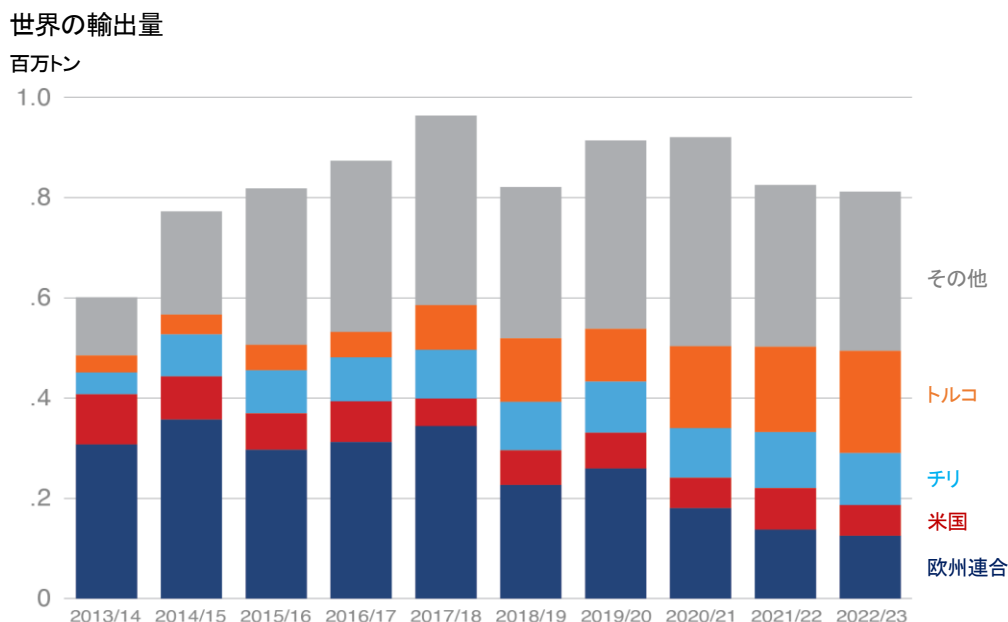
### 世界の輸出は増加しているが、中国のおかげではない

生産と同様に、世界の輸出は過去10年間で大幅な成長を遂げ、30%以上増加し、年平均10億ドルを超えている。しかし、過去5年の間に輸出量が減少した後で横ばいに転じたため、成長傾向は頭打ちになっている。中国は世界の供給量のかなりの部分を占めているが、生産量の増加は輸出の大幅な増加にはつながらず、むしろ国内消費を押し上げている。過去2年間の中国の生鮮モモ・ネクタリンの輸出量は、過去10年の平均である7万3千トンを下回り、モモ缶詰は引き続きほぼ横ばいである。さらに、主要な輸出国であるEUと米国は、生産の縮小に伴い輸出も大幅に減少した。輸出の伸びは、トルコとチリの増加に大きく牽引され、世界の輸出量は2017/18年度に過去最高の96万4千トンに達し、それ以来82万トン～92万トンの輸出量を維持している。

EUは従来から世界貿易の主要な推進力であり、2013/14年度には世界の輸出量の半分を占めた。その後、EUの輸出量は18万トン～12万5千トンに減少し、世界市場でのシェアは15%にまで低下した。EUは

以前から純輸出者であるが、スペインの供給量の減少により輸出量が2021/22年度以降15万トン未満にとどまっているため、EUの輸出超過は縮小を続けている。ロシアは2014/15年度までEUにとって最大の輸出市場であり、2017/18年度まではベラルーシがそれに続いた。現在は英国がEUの輸出量の大部分を受け取っているが、その量は減少している。

### トルコとチリがモモ・ネクタリンの輸出を支える



出典：Trade Data Monitor, LLC

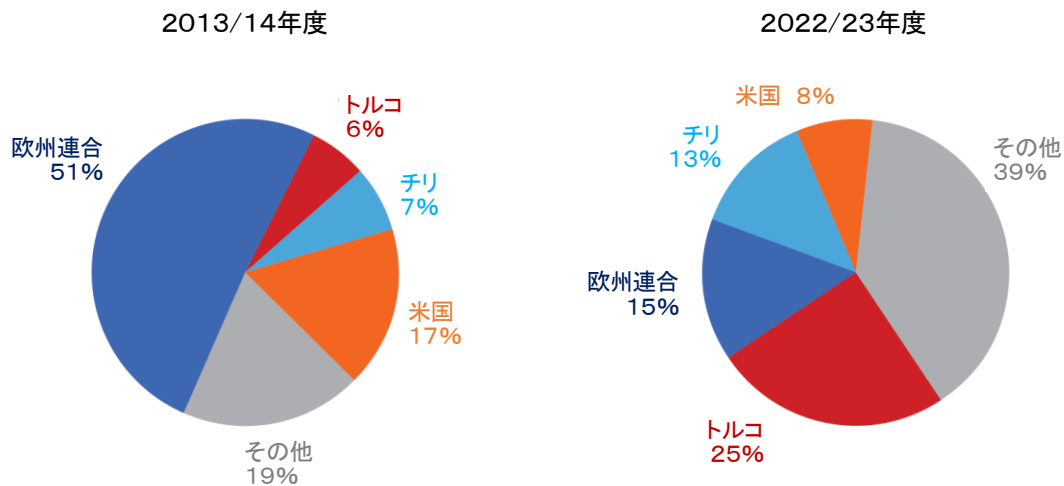
米国の輸出も大幅に減少した。過去10年間で10万トンから6万1千トンに減少し、米国の世界市場シェアは17%から8%に低下した。カナダとメキシコは引き続き米国産の最大の市場であり、そのシェアは合わせて米国の総輸出量の67%から2022/23年度には87%に増加し、重要性が高まっている。

台湾は第3位の市場だが、そのシェアは米国の総輸出量の22%から7%に減少したため、その重要性は低下している。米国は台湾の主要な供給国であるが、果実の消費がますます多様化し、輸入品が安価な地元産の果実の大量供給と競合するため、北半球の供給国への台湾の消費者需要は減少している。

EUと米国の供給が低迷する中、トルコでは投資が実を結んだ。品質の向上により需要が高まり、供給量の増加と相まって、トルコの輸出量は2021/22年度に5倍で過去最高の17万トンを記録し、欧州連合を抜いて世界最大の輸出国となった。モモだけでも過去10年間で出荷量は4倍近くになり、ネクタリンは7倍近く増加し、モモの輸出量とほぼ肩を並べた。ロシアは過去4年間、トルコ産モモ・ネクタリンの輸出量の少なくとも70%を受け取っており、大差をつけて最大の市場となっている。トルコはまた、世界の約60の市場に輸出し、世界的な存在感を高めている。トルコは、2022年の世界の輸出量の4分の1を占めた。

チリは、世界第3位のモモとネクタリンの輸出国であり、南半球の主要な供給国として、世界のネクタリン貿易において台頭してきている。栽培の時期が、ほとんどの主要輸出国と逆であるため、チリは輸出市場で(競合する他国や輸出先の国内供給から)ほとんど影響を受けない。輸出量も2013/14年度から2倍以上に増加し、推定10万4千トンに達した。ネクタリンが2021/22年度までの増加の大部分を占めた。チリはモモとネクタリンを合わせた生産量の60%以上を輸出しており、世界の輸出に占めるシェアが2013/14年度からほぼ倍増した。2020/21年度までは米国が最大の市場であったが、チリは2017年に中国のネクタリン市場へのアクセスを獲得した。これにより中国への出荷が増加し、中国は2021/22年度には3万7千トンでチリの最大の輸出市場となった。

## 輸出品シェア



出典: Trade Data Monitor, LLC

### 未来はそれほどモモ色ではない

2001/02年度以降、世界のモモとネクタリンの生産量の増加は圧倒的に中国に支えられてきたが、中国の栽培面積の減少は、そう遠くない将来の世界の生産量の減少の始まりを示している可能性がある。中国の増加がなければ、過去10年間に世界の生産量は50万トン以上減少していたと見られる。トルコとチリは生産量を増やし、世界の輸出を押し上げたが、生産の伸びの速度は中国に比べてかなり鈍い。過去2年間、世界の輸出は頭打ちとなったが、トルコとチリが他の主要輸出国の将来の減少を打ち消すのに十分な供給量を維持できるかどうかは、まだわからない。

- 1 モモとネクタリンはどちらもHS-6桁コードの080930に含まれており、国際的にはこのレベルでのみ共通している。特に断りのない限り、すべてのデータにはモモとネクタリンの両方が含まれている。
- 2 FAS/GAIN レポートCH2023-0103を参照
- 3 チリの2022/23年度のデータはまだ確定値ではない。
- 4 米国農務省農業統計局
- 5 米国農務省経済調査局

市場シェア及び世界の貿易に関する情報は、特に断りのない限り Trade Data Monitor, LLC による。

訳注: この記事の「輸出品」にはEU域内の貿易量を含みません。